



“植物のチカラ”

日清オイリオグループ CSR報告書 2009

「おいしさ・健康・美」を追求する私たちの社会的責任





アスリートをサポートする“植物のチカラ”[®]

当社は、未来のトップアスリートの卵である子どもたちの育成や各種スポーツイベントの開催・応援などに取り組むとともに、栄養講座の開催やホームページ上での情報提供を通じてスポーツ愛好家・アスリートを支援しています。また、日本オリンピック協会(JOC)オフィシャルパートナーとして世界で戦う選手を応援しています。

育て未来のトップアスリート

当社は、子どもたちの健全な成長に貢献するため、日本サッカー協会(JFA)との取り組みを2006年から行っています。「全日本少年サッカー大会」都道府県大会および決勝大会の支援、スポーツをする子どもの食事のポイントを説明した「食生活サポートBOOK」の配布、スポーツ栄養の分野でご活躍の橋本玲子さん(管理栄養士)を講師に迎えた栄養セミナーの開催などを通じ、未来のアスリートをサポートしています。



3人の日本代表を食事・栄養面でサポート

当社は、北京オリンピック・卓球日本代表の福原愛選手、FISフリースタイルスキー世界選手権(2009年3月開催)の女子モーグルで日本人初のチャンピオンとなった上村愛子選手、同大会で入賞した伊藤みき選手と食事・栄養サポートを含むアドバイザリー契約を結んでいます。管理栄養士である当社従業員が、国内外の自主トレーニングおよび合宿中の食事メニューの提案、スポーツ栄養の視点での食事管理など、食生活面からサポートしています。



福原愛選手(左)と打ち合わせ

私は選手の食事・栄養サポートをしています

アスリートの皆さんは、最高のパフォーマンスを発揮するため、日々厳しいトレーニングに加え、食事にも気を遣っていらっしゃいます。食事・栄養サポートをさせていただいているアスリートが、世界の舞台上で活躍されている姿を見るのは、とても嬉しいことです。アスリートのチカラとなるように、食事・栄養サポートを一層充実させていきたいと思っています。

宣伝・広告部 主管

清原 知子

CONTENTS

アスリートをサポートする“植物のチカラ®”	2
編集方針	3
日清オイリオグループについて	4
トップコミットメント	6

編集方針

当社グループは2007年に創立100周年を迎え、同時に次の100年へのスタートを切りました。これからの100年も“植物のチカラ”の可能性を追求し、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)をお届けする企業グループとして、日頃から積み重ねてきたCSRへの取り組みを報告します。

●目的

お客様、取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、社会・環境など、当社グループを支えてくださるさまざまなステークホルダーの皆様に、私たちが社会的責任についてどう考え、どのような取り組みをしているのかを報告することを目的としています。

●報告書の構成

この報告書は、当社グループが、食に携わる企業として、CSRの取り組みにおける重要課題は何か、どうあるべきかについて特集としてとりあげました。また、私たちが掲げるCSRへの基本姿勢、ステークホルダーごとの取り組み内容を紹介します。

より読みやすい報告書とするために、ユニバーサルデザインに配慮した紙面づくりを行っています。

●参考にしたガイドライン

この報告書はGRIの「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」や環境省の「環境報告ガイドライン」などを参考に、独自にステークホルダーを選定し、報告項目を決定しています。

●報告範囲

日清オイリオグループ株式会社と連結子会社（国内・海外）を含むグループ全体を対象としています。ただし、環境パフォーマンスデータと一部の取り組みについては、日清オイリオグループ株式会社単体を対象としています。（報告書中での表記について、日清オイリオグループ株式会社単体を「当社」、日清オイリオグループ株式会社と連結子会社（国内・海外）を含むグループ全体を「当社グループ」としています）

●報告対象期間

2008年4月1日～2009年3月31日

一部に当該期間外の取り組みが含まれています。

●発行

2009年6月

●CSR報告書2008からの変更・修正点

CO₂換算係数の変更や集計方法の見直しのため、CSR報告書2008で報告した数値を変更しました。なお、この修正により、これまでご報告した実績が大きく異なるということはありません。

●CO₂排出量および排出量原単位
(CO₂換算係数の変更による)

●特定荷主としてエネルギーの使用に係る原単位
2007年度実績(集計方法の見直しによる)

特集 “植物のチカラ®”を通じて

「美しい生活」(Well-being)を創造する	8
--------------------------	---

安全と安心のために	14
-----------	----

日清オイリオグループのCSR	18
----------------	----

日清オイリオグループのCSR活動の状況	20
---------------------	----

お客様のために	21
---------	----

取引先様とともに	23
----------	----

株主・投資家の皆様とともに	24
---------------	----

従業員とともに	25
---------	----

社会のために	26
--------	----

環境のために	28
--------	----

CSRを支える基盤	30
-----------	----

情報開示の方針

2008年度(2008年4月～2009年3月)の取り組みを報告する「CSR報告書2009」は、PDFと紙冊子の2つの媒体を通じて情報を開示しています。

「CSR報告書2009」(紙冊子): 読みやすさやメッセージ性を考慮して当社グループが注力している活動を中心に報告

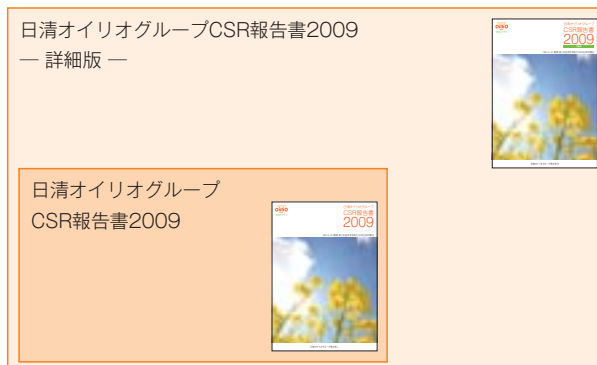
「CSR報告書2009 — 詳細版 —」(PDF): 各活動の方針・取り組み・実績など詳細な情報を掲載

詳細版は日清オイリオグループホームページよりご覧ください。

ホームページ:

<http://www.nisshin-oillio.com/company/csr/houkoku.shtml>

2つの媒体での情報量のイメージ



日清オイリオグループについて

会社概要

商号：日清オイリオグループ株式会社

本社：〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号

電話(03)3206-5005

代表者：取締役社長 大込 一男

創立：1907年(明治40年)3月7日

資本金：16,332百万円(2009年3月31日現在)

売上高：3,379億25百万円(2009年3月期・連結)

経常利益：80億43百万円(2009年3月期・連結)

従業員数：2,724名(2009年3月31日現在・連結)

事業所：本社、大阪事業場、横須賀事業場(中央研究所)、
横浜磯子事業場(横浜磯子工場)、名古屋工場、
堺事業場、水島工場、札幌支店、仙台支店、
関東信越支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、
広島支店、福岡支店、郡山営業所、新潟営業所、
長野営業所、埼玉営業所、西首都圏営業所、
横浜営業所、静岡営業所、北陸営業所、
四国営業所、岡山営業所、鹿児島営業所、
横浜神奈川事業所
(2009年3月31日現在)

グループ主要会社(2009年3月31日現在)

連結子会社

攝津製油(株)、日清商事(株)、日清物流(株)、大東カカオ(株)、(株)NSP、
(株)マーケティングフォースジャパン、日清プラントエンジニアリング(株)、
(株)ゴルフジョイ、日清サイエンス(株)*、日清マリンテック(株)、
日清ファイナンス(株)、ヤマキウ運輸(株)、陽興エンジニアリング(株)、
もぎ豆腐店(株)、大連日清製油有限公司、上海日清油脂有限公司、
日清奥利友(中国)投資有限公司、
SOUTHERN NISSHIN BIO-TECH SDN.BHD.、
INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN.BHD.、
T.&C. MANUFACTURING Co.,Pte.Ltd.
※2009年4月1日付で日清オイリオグループ(株)は日清サイエンス(株)を
吸収合併いたしました。

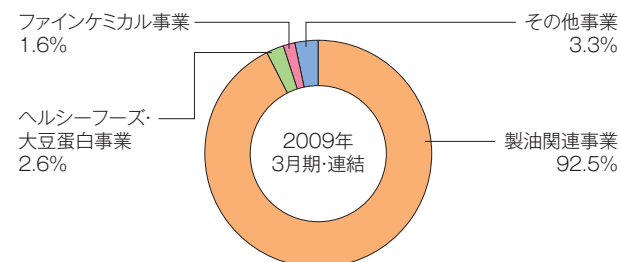
持分法適用関連会社

和弘食品(株)、(株)テンコーボレーション、(株)ピエトロ、幸商事(株)、
(株)日清商会、張家港統清食品有限公司、統清股份有限公司

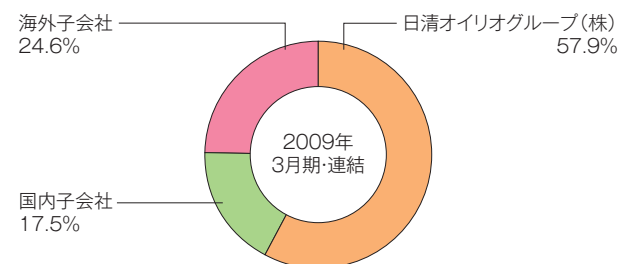
特例子会社

日清オイリオ・ビジネススタッフ(株)

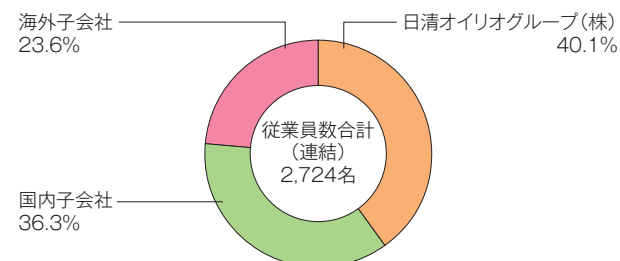
●事業別売上構成比



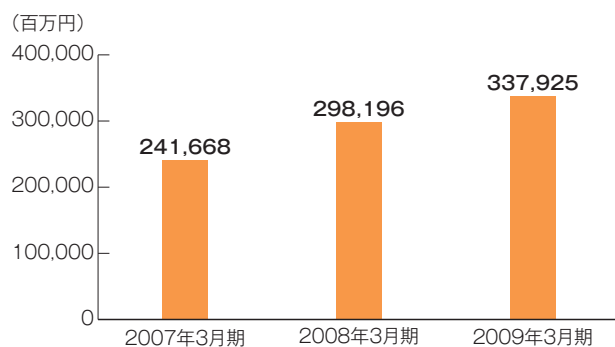
●グループ売上構成比



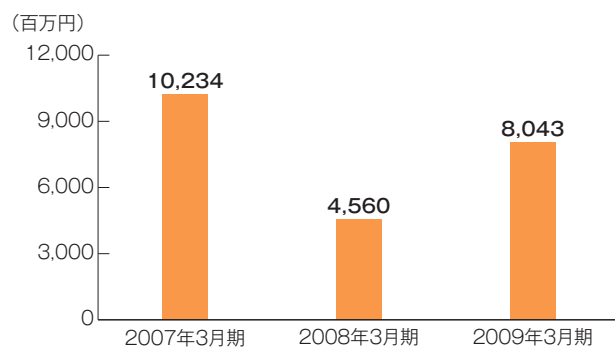
●グループ従業員比



●連結売上高



●連結経常利益



事業領域と製品

当社グループでは、植物がもつ3つのチカラ、「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」を、最高の技術によって引き出し、世の中にお届けしています。

●製油事業

食用油や油粕など油脂原料の持つ“植物のチカラ”を最大限に活かし、商品を提供します。日本だけではなく、中国を中心にアジア市場でも事業を展開しています。

主要な製品

- 家庭用・業務用・加工用食用油
- 油粕・穀類
- 工業用油脂・脂肪酸 など



●加工油脂事業

パーム油をベースにしたフライ用油脂やマーガリンなど。プロ仕様の商品はいずれも機能性・品質の高さで、製菓・製パンメーカーをはじめ、レストランやホテルの一流シェフからも高い評価をいただいています。

主要な製品

- マーガリン
- ショートニング
- チョコレート用油脂 など



●エコリオ事業

環境、社会と人に役立つ“植物のチカラ”を、非食用分野を含めた広い領域に応用します。

主要な製品

- 新素材「フィットポラス」
- アスファルト付着防止油
- コンクリート離型油

●ファインケミカル事業

化粧品や食品、医薬品、工業品など多岐にわたる分野のニーズにきめ細かく対応した機能性素材を開発しています。生産・販売拠点を海外に新設するなどグローバルに事業を展開しています。



主要な製品

- 化粧品原料
- 食品・医薬品添加剤
- 中鎖脂肪酸油
- 化学品 など



加工油脂事業

エコリオ事業

製油事業

大豆蛋白事業

ファインケミカル事業

ヘルシーフーズ事業



●大豆蛋白事業

良質なたん白質として注目されている大豆たん白。健康機能に加え、保水性や弾力性などの優れた機能があり、水産練り製品やハンバーグなどさまざまな食品に使用されています。

主要な製品

- 大豆たん白食品
- 大豆食品
- 豆腐・豆腐関連商品

●ヘルシーフーズ事業

健康オイルを使用したドレッシングや生活習慣病対応食品、特定保健用食品など、より多くの皆様に役立つ食品の提供を通じて、健康的で美しい生活を提案しています。

主要な製品

- ドレッシング・マヨネーズ類
- 高齢者・介護対応商品
- 生活習慣病対応食品
- 病者用食品
- 栄養調整食品



“植物のチカラ[®]”で世界に貢献します

世界へ「健康」を広げる

私は、植物には人々を癒す力があると考えています。食事をおいしくすること、人を健康にすること、人を美しくすること、どれも人を癒す力です。

それを私たちが技術を磨くことによって上手く引き出し、お客様にお届けしてまいりました。おいしく食べて人を健康にする「ヘルシーリセッタ」は、当社グループの経営理念を体現する商品であるといえます。

健康の追求は万国共通です。「ヘルシーリセッタ」は、日本の特定保健用食品にあたる認定を、2009年春までに台湾、韓国、中国で取得してまいりました。特に、中国は当社の創業時には大連に搾油工場をおくなど、かかわりの深い地であり、中国の人々に健康を提供できるのは嬉しいことです。

グローバル化と経済の発展に伴い、日本だけでなく世界で多くの人々が肥満や生活習慣病に悩んでいます。「ヘルシーリセッタ」は世界の人々に健康という側面から貢献することができます。今後も、より多くの人々に健康を広げていきます。

安全・安心・安定供給

ここ数年、食品の安全性や表示の信頼性に社会から深い憂慮が寄せられています。食品企業として、安全は絶対に守らなければならない使命です。当社グループは、2007年に創立100周年を迎えましたが、長年、お客様にご支持をいただいていた100年企業として、積み重ねてきた経験とより高い水準の取り組みによって、これからも安全を守っていきます。

お客様に安心して選んでいただくには、当社グループのブランドに対する信頼を高めることが重要です。私たちは「日清オイリオ」という自らの顔で事業を行っており、100年企業としての信頼もここに宿っています。また、社団法人日本植物油協会でも業界全体として取り組むために「信頼性向上のための自主行動指針」をつくり、安全・安心への心構えを新たにしました。当社は業界をリード

する立場として、そして100年企業としてお客様の信頼に応える事業活動を行います。

一方で、安定供給も、安全・安心とともに不可分のものです。ナショナルブランドとして、常に安全な商品を安定してお届けするという使命があります。2008年は夏まで原料高騰が著しく、非常に厳しい状況でした。もちろん、企業としてはすべての力を注いで安定供給に努めていきますが、一企業では限界もあります。今後はメーカーだけでなく、業界や政府、消費者も含めて、食の安定供給体制について真剣に考えていかなければならないのではないのでしょうか。このような議論の提起もしていきたいと考えています。

環境に“植物のチカラ[®]”から取り組む

温室効果ガスについては、工場におけるエネルギーの重油からガスコージェネレーションへの転換や、海外生産の増加に伴う国内での搾油量減少により、総量としては減少しています。一方で、原単位の削減は搾油量の減少により、さらなる削減が難しくなっています。

そのため当社としては、より独自性のある取り組みを通じて環境保全に貢献したいと考えています。考え方としては、「石油に依存しない世界への転換」、「燃料を化石燃料でない再生産可能なものに」ということです。私たちはこの取り組みを“エコロジー”と“オイリオ”のふたつの言葉から「エコリオ」と命名し、新たな用途の研究・開発を行っています。

具体的には、2009年1月に発表した新素材「フィットポーラス」は、大豆の皮を利用して新たな機能を見出したものです。この素材には電磁波吸収特性があり、さまざまな用途が期待できます。他にも、パーム油に使われるアブラヤシの未利用部分を食用以外の用途に有効利用できないか、ということも考えています。コーンなどの食料や飼料になる作物をバイオ燃料の原料にするのもったいないことです。当社は、環境に役立つ“植物のチカラ”を、非食用分野を含めた広い領域へ適用していきます。

技術と人を磨く

当社の中央研究所は設立から50年を迎えました。これまでさまざまな技術を開発し、さらにこれからの50年に向けた研究の方向性を検討しています。特に、日本国内は少子高齢化によって食品の市場が構造的に縮小する傾向にあります。このような状況では、技術によって「おいしさ」「健康」「美しさ」といった機能を究めていくことが重要です。そのために、当社だけでなく、他の企業や大学、研究機関と連携し、より高い価値を導き出したと考えています。

研究開発も含むすべての事業活動の根幹にあるのは「人」です。人材育成はすべてに優先して考えなければなりません。当社は2009年度から、新しい人事制度を導入しました。これからは、あらゆる事業活動が日本国内だけでなく、世界へと広がっていきます。この状況に対応するために、企業人としてだけでなく国際人として世界で認められる人材を育成していきます。

国際人として重要なのは、「相手とともに栄えていこうという理念」です。自分たちだけ儲かればよいということではありません。事業のパートナーや相手国とともに発展するという考え方で、当社グループの事業は展開しています。

このことは企業活動全般にいえることです。企業にはさまざまなステークホルダーがありますが、当社グループは経営理念として、すべてのステークホルダーを同等に尊重しています。特定のステークホルダーを優先することではなく、どのステークホルダーとも均等にフェアに対するということです。これはまさに、社会全体に対する企業の責任であり、今後も継続して遂行してまいります。

最後に、本報告書に関心をお持ちいただきましたことに感謝申し上げますとともに、ステークホルダーの皆様からの忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

日清オイリオグループ株式会社
取締役社長

大 辺 一 男

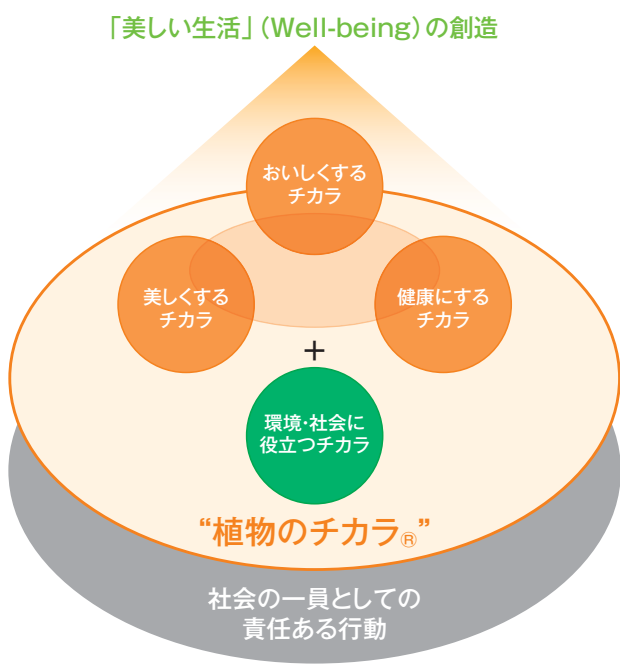




特集

“植物のチカラ”を通じて、 「美しい生活」(Well-being)を 創造する

当社グループは、1907年の創立以来、植物がもつ3つのチカラ、「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」を技術によって引き出し、世の中にお届けしてきました。「おいしく」食べて、「健康」になり、さらに「美しく」なる。この喜びの循環を、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)として、提案・創造していきます。そして、食品以外の分野においても、“植物のチカラ”を活用し、社会や環境に貢献します。



ブランドコンセプトに基づくCSRの概念図

「100年積み重ねた技術」によって、“植物のチカラ”を引き出します

私たちは“植物のチカラ”を最大限に引き出すために100年以上をかけ絶え間ない技術革新を続け、常に社会のニーズに応える商品を開発、提案してきました。例えば、当社を代表する製造技術のひとつとして「酵素エステル交換技術」がありますが、この技術をもとにさまざまな機能の商品や環境負荷に配慮した製法を生み出してきました。いま、健康オイルとして注目を集めている「ヘルシーリセット」もこの新しい技術により生み出された商品です。



健康に寄与する“植物のチカラ”[®]

植物は、健康に寄与する多くの特性を持っています。私たちは、この特性を活かすとともに、おいしさや、自然の恵みといった安心感をこめた商品を、製油事業、ヘルシーフーズ事業、大豆蛋白事業などを通して皆様の食卓にお届けし、日々の暮らしの中で健康に貢献することができると思っています。

健康にするチカラの例

植物油

- 効率が良いエネルギー源として
- リノール酸、リノレン酸など、必須脂肪酸の供給源として
- 美容や健康維持に欠かせないビタミンEの効率の良い供給源として

中鎖脂肪酸

- エネルギーになりやすい
- 体内に蓄積しにくい

大豆に含まれるヘルシー成分

- たん白質、イソフラボン、オリゴ糖、GABAなど

中鎖脂肪酸にこめた「美しい生活」(Well-being)への願いを世界的に展開



当社グループでは、中鎖脂肪酸にこめた健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)への願いを、世界的に展開しようとしています。

2005年には台湾、2009年には韓国と中国で、「ヘルシーリセッタ」が日本の特定保健用食品に相当する認可を受けました。

「体に脂肪がつきにくい」効果を通じて、経済発展に伴って増えつつある肥満や生活習慣病への対応を進め、世界の人々の健康に貢献したいと考えています。

中国の皆様の健康のために

私たちは「中国版ヘルシーリセッタ」の現地での生産にあたり、GMP*という制度に基づく工場の建設から始める必要がありました。建設にあたっては、既存の製品の生産ラインを残しながら、GMPに対応した設備を作るため、手作りの部分が多く苦労しました。私たちが作る「中国版ヘルシーリセッタ」がこれから中国の皆様にご使用いただき、健康な社会の実現に貢献していければ大変うれしいと思います。今後も、万全の生産体制に向けて努力していきます。



日清奥利友(中国)投資有限公司
中国技術センター長
吳 堅

*GMP：医薬品レベルの高度な衛生管理が求められる製造管理および品質管理規則

健康

食べることから健康を考える

私たちは、介護が必要な方や腎不全の方など、日々の食事に苦勞されている皆様のために、長年にわたり、患者の皆様や医療関係者など専門家の意見を取り入れながら商品開発を続け、利用者および関係者の皆様から高い評価をいただけてきました。

食に対する多様な機能が同時に求められる複雑な社会環境ですが、ますます私たちの取り組むべき領域が広がってきています。今後も皆様のお役に立つ、さまざまな商品を提供していきます。

食に関するニーズと効果

「おいしく食べる」	▶ 食事が生活への前向きな意欲につながる
「三大栄養素のひとつ、脂質をとる」	▶ 健康維持
「脂質をとりすぎない」	▶ 生活習慣病やメタボリックシンドローム対策
「効率の良い栄養補給を」	▶ 加齢や病気によって体の機能が低下した方々のサポート

エネルギーになりやすい

中鎖脂肪酸を活用した商品群

私たちは、いち早く中鎖脂肪酸の効果に注目し研究を続けてきました。「中鎖脂肪酸」は食べた後、「エネルギーになりやすい」「脂肪がつきにくい」という特長があります。特定保健用食品として効果が認められた食用油「ヘルシーリセット」をはじめ、「ENE-CUBE(エネキューブ)」「プロキユアプリン」「リセットソフト」など、さまざまな商品を展開しています。



血圧や血糖値が気になる方に

機能性の高い素材により、

特定保健用食品として認められた商品群

生活習慣病対策として、血圧が高めの方に「マリンペプチド」、コレステロールの高い方に「きちんとキトサンビスケット」、食後の血糖値の上昇を抑える「食事のおともに食物繊維入り緑茶」、さらに、おなかの調子を整える「スキッと快通青汁」などの特定保健用食品を揃えています。





高齢になってもおいしく食べたいという願いに応える

嚥下(えんげ)能力の低下に対応します

加齢や病気などにより食べ物や飲み物を飲みこむことが難しくなると、誤って気管に入ることが起こりやすくなります。そのため肺炎や窒息の危険を生じさせるほかに、食べる楽しみを失わせることとなります。さらには食欲低下に伴う「脱水症状」や「低栄養状態」となり「体力の低下」等を引き起こします。



私たちは従来、「食べ物や飲み物を飲みこむ能力」が低下している方に、食品にトロミをつけることができるトロミ調整食品の販売を行ってきました。医療機関や介護の現場の方とのコミュニケーションを重ね、実際に使用する方々の声を商品開発に反映し、多くの病院や介護施設、また市販品として好評をいただいています。このたび、病院・介護施設向けのトロミ調整食品「トロミパーフェクト」をご家庭でもお使いいただけるよう、従来までの通信販売に加え、店舗での販売を開始しました。

在宅介護家族を支援する「ありがとう介護研究会」

2008年11月、在宅介護に関わるご家族やヘルパーなど介護を支える方々に対して、最新情報やコミュニケーションの場を提供し、在宅介護への理解を深めていただくことを目的に「第1回ありがとう介護研究会」を開催しました。

研究会のテーマは「よく生きるとは？ 一食べることを楽しむために」。トロミ調整食品により、高齢者や介護を受ける皆様にも食べる楽しさを提供したいと考えている当社からのメッセージです。

研究会では、お母様の介護を体験された女優の坪内ミキ子さんをはじめとする著名な方々を招き、約100名の参加者を前に講演していただきました。研究会は年2回程度の頻度で、今後も継続していきたいと考えています。



坪内ミキ子さん



研究会の様様

トロミ調整食品への期待

老化や何らかの疾患の影響によって、飲みこむ力が弱くなったり、飲みこむのが遅くなったりすると食べ物が気管に入る誤嚥という症状が出ることがあります。このような飲みこむ力に問題を抱えた方に対して、安全に口から食べてもらうためにはトロミ調整食品の使用がとても効果的です。また、過去に存在したトロミ調整食品は“味が変わる”、“べとつく”、“固まるのに時間がかかる”などいくつかの問題点がありましたが、「トロミパーフェクト」はそれらをすべて解消したとても使いやすい製品です。このようなよい製品を正しく使うことで、口から食べることを安全に続けられる人が増えることを願います。

また貴社は、スタッフ研修用の資料などを積極的に作成し、医療現場の声を取り入れた商品開発を行っていますので、今後も「トロミパーフェクト」に

続くよい商品が開発されることを期待しています。



日本大学歯学部
摂食機能療法学講座
准教授
戸原 玄 氏

食べる

“植物のチカラ”[®]で健康的に美しく

「美しい生活 (Well-being)」は当社グループが商品を通じて提供するコアプロミス(約束)です。

美しくあるには、まず身体が健康であること。食生活を通じた健康な身体が基礎となり、美しさにつながります。

私たちはその健康な身体にさらに美しさを添える安全で機能的な化粧品を“植物のチカラ”を活かすことで実現させるように活動しています。

化粧品による肌の美しさと健康

身体の中から健康

近年、食品だけでなく、化粧品の世界においても「安全・安心」が重要な関心事項になっています。そこには、女性の社会進出に伴ってストレスが増え敏感肌の女性が増えていること、肌ストレスに対してよりやさしい化粧品を求める女性たちの希望、エコロジーなものを求めるライフスタイルの変化などがあります。より安全なものを、安心して肌につけられるものをお願いする女性たちの気持ちに、“植物のチカラ”で応えていきます。

当社では、これまで石油化学系原料のみならず天然系原料でも実現できなかった機能を“植物のチカラ”で実現しています。こうした当社の取り組みが市場で評価され、メイクアップ用原料として、確固とした地位を獲得しています。



植物由来の化粧品原料の例

サラコスPR-85

クレンジングの機能に特化した油です。油性のマジックを落とすほどの機能を、植物由来で実現しました。

ノムコート TQ-5

水-油-水という3層構造のエマルジョンを実現します。これにより、内側に入れた有効成分をゆっくりと肌を送りこむことができます。

サラコスHG-8

水の比重「1」に限りなく近い油です。分離せずに安定した乳液をつくることができます。

ノムコートCG

わずか1%添加するだけで、こんにゃくのような固いゲルをつくることのできる増粘剤です。植物由来のため生分解性があります。



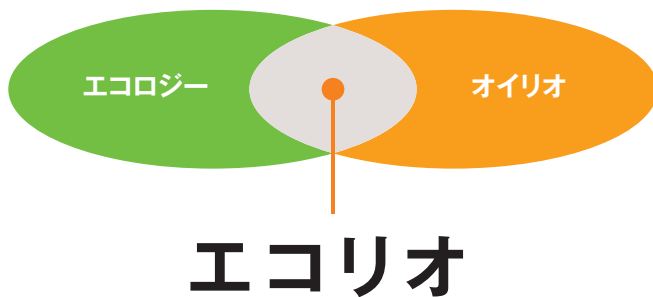
水中に浮かぶサラコスHG-8



美しく

環境に“植物のチカラ”で貢献へ

世界的な人口の増加による食料需要の増大や、食用作物が燃料資源として使われたことに伴う穀物需要の増加などによる原料高騰があり、それらにより世界の食糧原料の需給バランスに影響が出ています。私たちは食の安定供給の観点から、食べられる植物は食用へ、食べられない植物を食用以外へという基本方針のもと、社会、環境に役立つ“植物のチカラ”を、非食用分野を含めた広い領域へ適用します。私たちはこの取り組みを“エコロジー”と“オイリオ”のふたつの言葉から「エコリオ」と命名し、新たな用途の研究・開発を行っています。



100%植物由来の新素材「フィットポーラス」

大豆油の製造段階で発生する大豆の皮を焼成した粉体が、「電磁波遮蔽吸収体」であることを発見し、多孔性炭素材料「フィットポーラス」を発表しました。

これは、産学協同のプロジェクトとして三和油脂株式会社ならびに山形大学工学部飯塚研究室と共同で研究開発を行っています。



フィットポーラスの特長

- 原料の環境負荷が小さい(大豆の皮の利用)
- 電磁波を遮蔽・吸収する
- ゴムに練り込める量が多い(カーボンブラック比4倍)
- 安全性が高い(植物原料)

現在の取り組み

- 新素材の開発
大豆の皮から作った新素材「フィットポーラス」
- 工業用途への植物油の用途適用
アスファルト付着防止油、コンクリート用型枠の離型油「エコメイトシリーズ」
- 燃料用途への植物資源の活用
インドネシアの試験農場での食用に適さない油糧種子の実験栽培



自然の力と「フィットポーラス」

「自然に学ぶ」、「バイオミメティクス」、あるいは「ネイチャーテクノロジー」という言葉を最近よく聞きます。地下に埋まっている資源を掘り出して使うのは止め、地上で手に入る日光や植物などを使い、あるいはそれからヒントを得たものづくりを目指す取り組みです。「フィットポーラス」は、植物が持つ天然の多孔質構造を壊さず、また、そこに含まれる成分を有効活用することを念頭に開発された機能性炭素粉体です。これまでに、電磁波を遮蔽する特性に優れていることを見出しています。まだまだ私たちが評価し得ていない特性を持っている可能性もあります。「フィットポーラス」は、



自然の恵みと科学技術の発展が調和した未来を夢見させてくれる新素材です。

山形大学
理工学研究科教授
飯塚 博 氏

環境

安全と安心のために

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、「植物のチカラ」を独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

お客様の声の収集

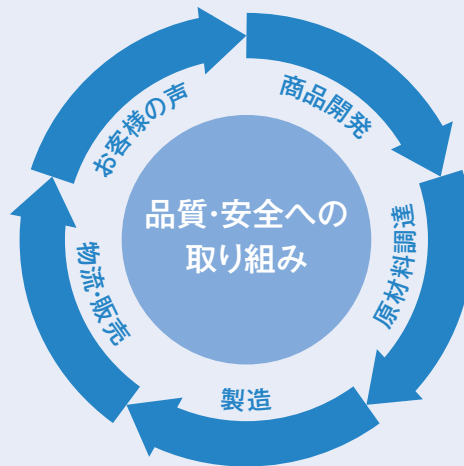
お客様相談窓口などを通じてご意見・ご要望をいただいています。

▶P21

物流・販売

取引先様(販売先)へ安全・確実に納品します。また、各地で料理教室を開催し、食用油のおいしさや料理の楽しさを提案しています。

▶P16



商品開発

商品の企画、研究開発、資材調達の各部門が連携して、お客様の声を反映した商品開発を行っています。

▶P15

原材料調達

購買先を評価し、試験に合格したのみを受け入れます。

▶P15

製造

国内すべての工場でISO9001の認証を取得しています。原料受入れから包装の各工程で作業内容を記録・管理しています。

▶P16

「日清オイリオグループ行動規範」における

顧客価値の追求

- 最良の質をもって提供するように、常に商品・サービスの質の維持・向上に努めます。
- 商品・サービスの安全性を最優先とし、そのための供給・管理体制の徹底と更なる改善に努めます。
- 商品・サービスおよびその供給・管理体制について正確で分かりやすい情報を可能な限り公開し、商品情報や活動状況の透明性の維持・向上に努めます。
- 不測の事態が生じた場合は、速やかに人身・設備・環境その他への影響の可能性を整理し、その影響を最小限とするための対策を講じます。同時に、その原因究明と根本的な再発防止対策を行い、これらに関する情報を可能な限り公開するよう努めます。
- 常にコストダウンのためのあらゆる施策を講じ、お客様に満足頂ける価格での商品・サービスの提供ができるように努めます。
- お客様の満足度を基点として、その声に、迅速かつ誠実に対応するとともに、他社に先駆けて、お客様の生活を豊かにする新たな価値を創造・提案し続けることに努めます。

品質保証活動

品質保証は事業がグローバル化するにつれ、年々要求度・専門性が高度化しています。当社は、原材料の購入から商品の販売に至るまで、すべての段階で安全性確保、環境配慮を目指した仕組みを継続的に運用・改善していくとともに、問題対応型の品質保証から、予防的な品質保証への転換を進めています。

当社のブランド憲章でもある「コアプロミス」(P18参照)を品質方針として定め、全社員がお客様にご満足いただける商品を提供し続けるために、品質保証活動に取り組んでいます。

品質保証体制

取締役会の諮問機関である「品質・環境マネジメント委員会」が、当社全体の品質保証にかかわる経営課題の抽出を行うとともに、ISO9001に基づいた品質マネジメントシステムを統括しています。サブシステムとして、各事業部門が品質マネジメントを担っており、「ISOプロセス会議」が部門横断的な課題解決を図る体制です。また、当社社内だけではなく、国内外のグループ企業を含めた全事業活動としての品質保証体制をとっています。こうした品質保証体制の維持と確実な運用を「環境・品質保証室」が支援しています。

商品開発

新商品の開発計画など設計業務の管理について定めた開発設計管理規定に則り、商品企画、研究開発、資材調達



の各部門が連携して、お客様の声を反映した商品開発を行っています。この段階で、適用される法規制を明らかにするとともに、各種調査結果や試験・検査データをもとに、製品の「法規適合性」「安全性」「品質」の評価・確認を行います。

原材料調達

油糧種子や原料油脂を調達する際は、原料購買管理基準に則り購買先の評価・選定を行います。また、分析試験項目や基準値を定めて品質を確認、合格したもののみ受け入れます。新たな原材料は、サンプルの品質評価を行うとともに、原材料メーカーから原材料規格書を入力し、使用にあたっての安全性を確認しています。

また、商品の容器包装、ラベル、段ボールなど、容器包装資材の調達はロジスティクス部資材グループが行っています。資材グループは以下の調達の方針をふまえて資材調達先を選定し、資材の価格や規格、設計・開発に関して取引先様と緊密な連携を保っています。

調達の方針

「日清オイリオグループ行動規範」におけるビジネス社会の法令および倫理の遵守

- 原料・資材等の購入先などに対しては、常に公平かつ対等な立場で接し、優越的地位を利用して不当に不利益をおよぼしません。また、個人的な利益や便宜の供与を要求しません。
- 販売店などに対しては、常に公平かつ対等な立場で接し、排除行為・不当に差別的な取扱い・事業活動の妨害などの不正行為を行いません。
- 取引先などとの接待や贈答品の授受は、健全な商慣習や社会的常識の範疇を逸脱しません。

原料調達における取り組み

当社は継続的に海外の原料の産地や製造者を訪問し、品質や安全性について点検を実施しています。2008年度はアメリカ、カナダおよびブラジルの各国を視察し、産地や現地製油メーカー、積み出し施設を訪問し安全性などを確認しました。また、アメリカやカナダの農業関係団体とは、長年にわたり情報交換を続けています。



現地視察の様子



穀物を貯蔵する産地のサイロ



船積みの様子



船積みされ出港を待つ本船

製造

当社は、国内すべての工場でISO9001の認証を取得しています。異物混入防止のための製造ライン設計や、工場内で働く人に対する食品衛生マナーの教育など、食品の安全・安心を確保するための活動を地道に続けています。また、原料受け入れから包装の各工程で作業内容を記録・管理しています。各工程で品質検査を行い、定められた規格・基準を満たしていることをチェックしています。

●異物混入防止のための取り組み

1. 防塵カバーによる異物混入対策の徹底



横浜磯子事業場 食品充填ライン

2. 食品衛生マナー教育



横浜磯子事業場 加工油脂工場

3. 徹底した品質検査体制



横浜磯子事業場 微生物検査

物流・販売

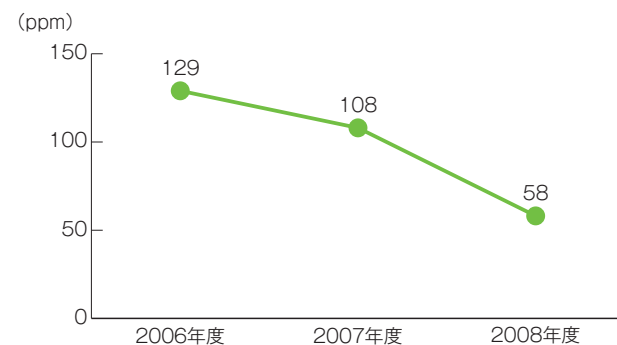
取引先様(販売先)への安全・確実な納品の実現および保管、出荷、輸配送、納品までのすべての物流現場での安全を目指し、物流品質管理基準を定めています。物流トラブルの発生を想定して、迅速な連絡、事後対応、対策を早急に講じる体制を構築しています。

物流品質の向上への取り組み

再配送、緊急出荷等の非効率配送の発生原因となる誤納品、汚破損、延着などの物流異常の削減を推進しています。

輸配送に携わる協力会社と定期的に品質会議を開催するなどの取り組みを進めました。また、2008年11月に誤納品防止全国キャンペーンを実施、以降年度内の誤納品ゼロを達成しました。これらにより2008年度の物流異常発生率は58ppm(輸配送)と、前年度に比べ大幅に改善しました。

●パッケージ商品物流異常発生率



※ppm:百万ケース当たりの異常発生率

商品表示への取り組み

商品に表示する内容は、法令で定められた事項のほか、成分や特長だけでなく、使用上の注意事項といった点もお客様にとって重要な情報と位置づけています。新商品発売やリニューアル時は関連部門間で慎重に確認を行い、内容が正しくお客様に伝わるよう心がけています。

具体的な事例はP22「お客様の視点に立った商品づくり 注意点に気がつくように」をご覧ください。

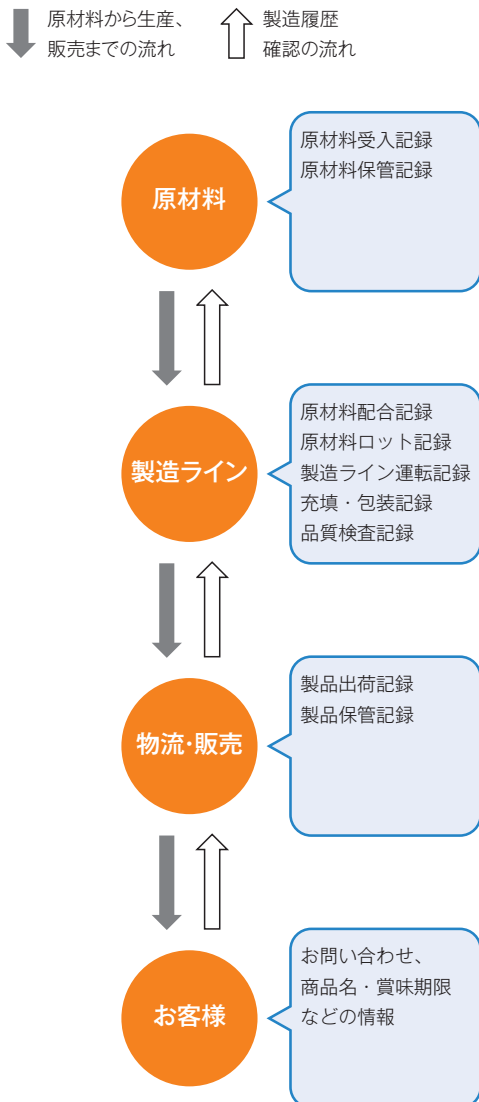
トレーサビリティ(追跡可能性)の確立

当社では、お客様に安全で安心できる商品をお届けするため、原材料取引先様(調達先)から原材料規格書入手し、安全性を確認しています。

また、原材料から生産、販売までの情報を確認できるISO9001の仕組みにより、商品名と賞味期限などの情報から、いつ受け入れた原材料か、製造時のさまざまな履歴を追跡し確認することができます。

トレーサビリティを確立することにより、商品に関するお客様からのお問い合わせに迅速に対応でき、また、万が一問題が発生しても原因を速やかに特定し、影響の拡大を最小限に抑えることができます。

●トレーサビリティの流れ



データベースシステムの活用

当社グループは、原材料、商品に関する膨大な情報を一元管理するデータベースシステム「I-base」を構築しています。「I-base」には、トレーサビリティの確立につながる各段階での情報がすべて蓄積されています。

「I-base」を活用することにより、部門間での情報の共有が進むとともに、情報検索が容易になります。原材料取引先様(調達先)のご協力のもと順次情報の拡充・更新を進めており、お客様へご提供する商品情報のさらなる精度の向上とスピードアップを図っています。



I-base画面

トランス脂肪酸への対応

トランス脂肪酸は、過剰に摂取すると血液中の悪玉コレステロールを高め、善玉コレステロールを減らします。

欧米では、食品中の含量を規制したり、商品表示に含量の記載を義務づけている国があります。

当社は、トランス脂肪酸問題について、当社独自の立場からさらなる改善の取り組みを進めています。国内で基準はありませんが、米国食品医薬品局(FDA)には、一食当たりトランス脂肪酸が0.5g未満(油脂の場合100g当たり3.5g未満)の場合に0gと表示できる基準があり、当社は既にその水準に達しております。^{*1}

さらに技術的には、現在最も厳しいとされるデンマーク基準^{*2}を目指して管理を始めています。今後も継続的にトランス脂肪酸を低減する取り組みを進めてまいります。

^{*1} ただし、製造過程で水素添加を施した一部の業務用商品を除きます。

^{*2} 油脂中のトランス脂肪酸の含有量を2%までとする制限が設けられています。

日清オイリオグループのCSR

CSRの基本方針

経営理念の実現を通じてステークホルダーの皆様の期待と信頼にお応えすることが、私たちにとってのCSRです。

日清オイリオグループの経営理念

- 1 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
- 2 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求
- 3 社会の一員としての責任ある行動の徹底

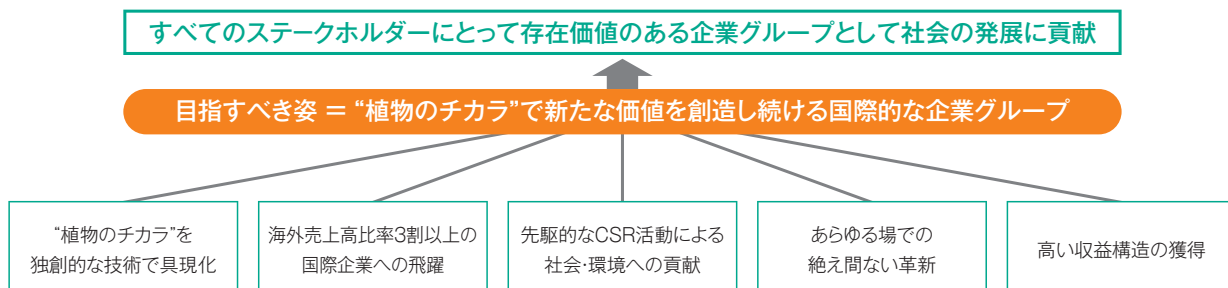
コアプロミス

日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)を提案・創造いたします。そのため私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束いたします。

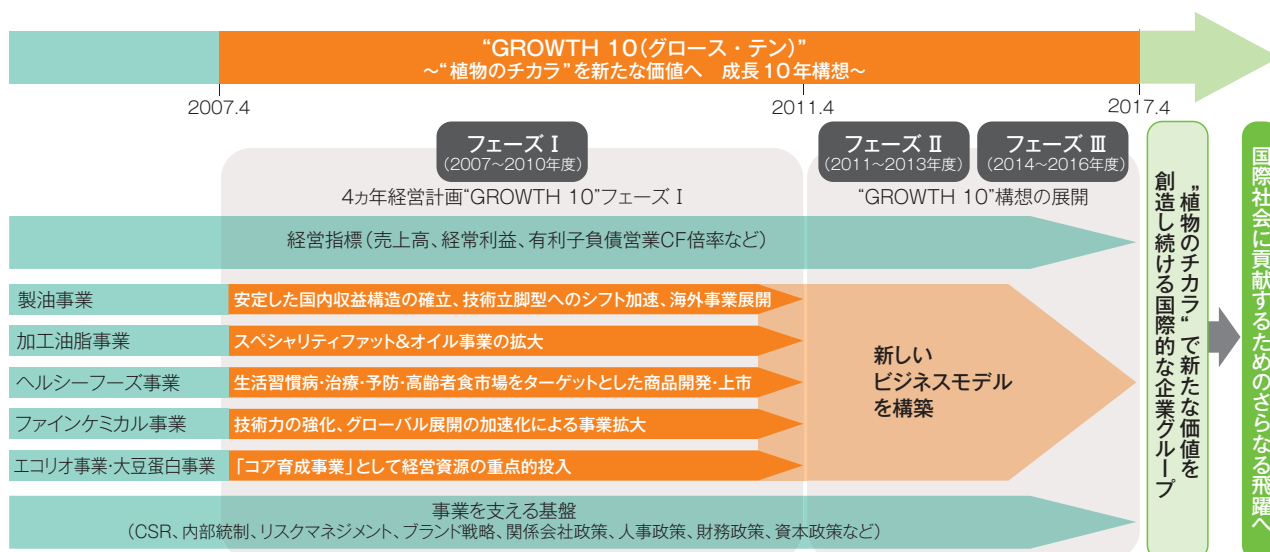
経営基本構想“GROWTH 10”におけるCSR

2007年度からスタートしました10カ年経営基本構想“GROWTH 10(グロース・テン)”および2007年度から2010年度までの4カ年経営計画“GROWTH 10”フェーズⅠにおいても、CSRについて明確に位置づけています。

●10カ年経営基本構想“GROWTH 10” (2007年4月～2017年3月)



●4カ年経営計画“GROWTH 10”フェーズⅠ (2007年4月～2011年3月)



※フェーズⅡのスタートにあたっては、フェーズⅠの総括を踏まえた中期経営計画を策定します。

CSRマネジメント

CSRの取り組みの基本方針

意義・目的

- CSRとは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「法的な責任を果たすこと」はもちろん、安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供、環境問題への取り組み、社会貢献、情報開示など、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」です。
- 日清オイリオグループにとって、経営理念の実現そのものが、CSRに対する取り組みに直結するものです。
- 日清オイリオグループは、CSRに対する主体的な取り組みによって、あらゆるステークホルダーからの信頼・共感の維持・向上を図り、企業の持続的発展、企業価値の向上を目指します。

行動指針

「日清オイリオグループ行動規範」をCSRに対する取り組みの行動指針として位置づけ、日清オイリオグループを構成する全員の主体的な取り組みを推進します。(行動規範の詳細は当社ホームページに記載しています)

CSR推進活動状況

CSR報告書読み合わせ会の実施

CSR報告書2008の内容についての解説を通じてCSRへの理解を深めることを目的として、従業員を対象としたCSR報告書読み合わせ会を全国の拠点14カ所で開催しました(参加人数424人)。当社グループのCSR・環境への取り組み状況や課題についての啓発活動を行いました。

CSR推進チームの活動

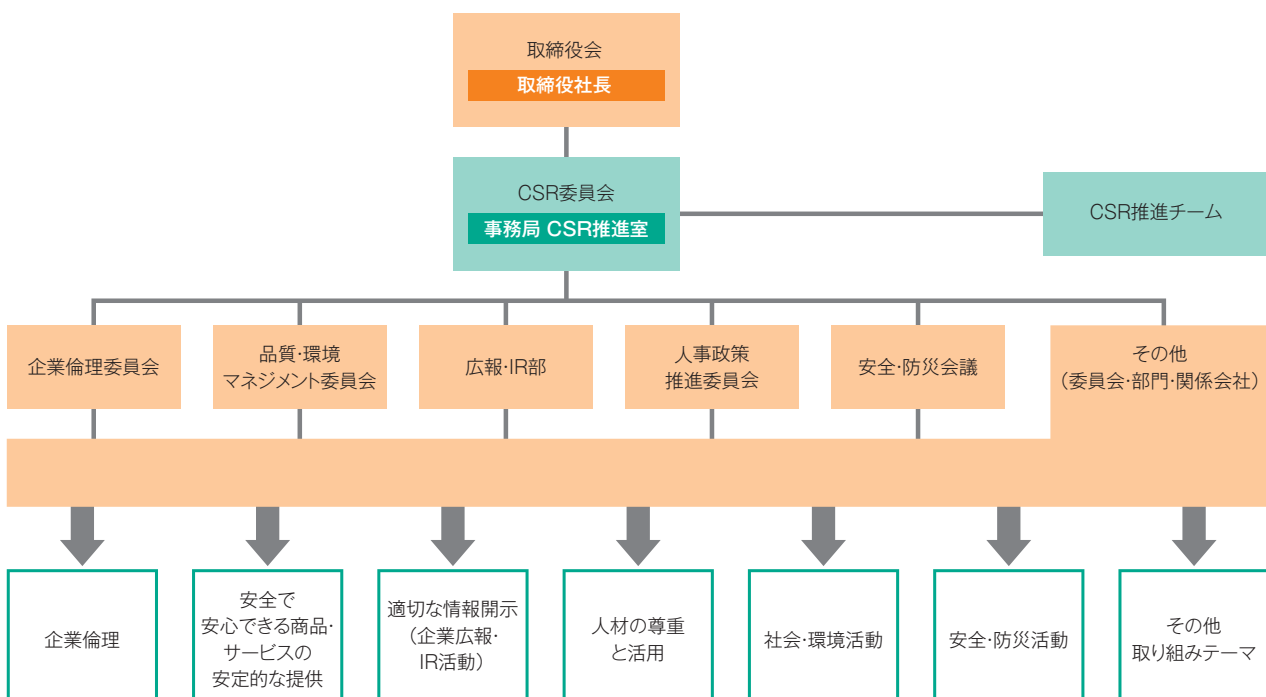
CSR委員会のワーキンググループとして部門横断的に組織されたCSR推進チームでは、当社グループ内でのCSRの普及や、より活発なCSR活動につながる施策について検討しています。

2008年度は、社会貢献活動の推進をテーマのひとつに検討を重ね、社会貢献方針(P26参照)を策定しました。



CSR推進チーム会議

● CSR推進体制



日清オイリオグループのCSR活動の状況

主たるステークホルダーへの取り組み方針とともに、2008年度の取り組み課題と私たちのCSR活動の現状・課題を報告します。詳しい取り組み実績は、当社ホームページにて公開している「日清オイリオグループCSR報告書2009—詳細版—」をご覧ください。

対象ステークホルダー：顧客（お客様）	
[方針] 「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、“植物のチカラ”を、独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。	
2008年度CSR取り組み課題	自己評価
食の安定供給の継続的実現	◎
現場点検重視の品質管理強化	◎
中国での保健食品製造に向けた品質保証体制の構築	◎
中鎖脂肪酸の価値訴求活動	◎
「日清ベジフルーツオイル」による新カテゴリーの提案	○
2009年度CSR取り組み課題	
・品質マネジメントシステムの有効性の強化（フードディフェンスへの対応など） ・消費者ニーズと当社コア技術の融合による新しい価値の創造	

対象ステークホルダー：取引先（販売先）	
[方針] フェアネス（公平・公正）に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、共に成長していきます。	
2008年度CSR取り組み課題	自己評価
相互資源の付加価値向上を目指す共同開発の推進	○
他メーカー、流通小売との協働による新規・提案型販売促進の具体化	◎
2009年度CSR取り組み課題	
外部パートナーとの協力・提携による新技術開発、用途開発の推進	

対象ステークホルダー：取引先（調達先）	
[方針] フェアネス（公平・公正）に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、共に成長していきます。	
2008年度CSR取り組み課題	自己評価
相互資源の付加価値向上を目指す共同開発の推進	◎
2009年度CSR取り組み課題	
資材メーカーなどと連携した容器品質の向上	

対象ステークホルダー：株主・投資家	
[方針] 健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元に努めます。また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。	
2008年度CSR取り組み課題	自己評価
株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの強化	○
海外投資家の皆様への情報発信強化	◎
2009年度CSR取り組み課題	
・株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの強化 ・海外投資家の皆様への情報発信の強化	

対象ステークホルダー：従業員	
[方針] 時代に合った働きやすい環境を整え、従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。	
2008年度CSR取り組み課題	自己評価
組織活性化、人材育成を主眼とした人事諸制度の再構築	◎
ワークライフバランス施策、次世代育成支援対策の本格展開。	◎
心身の健康維持向上に重点を置いた新たな取り組みの実施	◎
安全防災教育の体系化	○
2009年度CSR取り組み課題	
・チャレンジ性強化、人材育成強化等を主目的とした新人事制度の具体施策の展開 ・時間創出をベースとした当社独自のワークライフバランスと次世代育成支援の具体施策の検討・実施 ・生産現場での安全義務教育の運用および防災活動の推進	

対象ステークホルダー：社会	
[方針] 良い企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。	
2008年度CSR取り組み課題	自己評価
オリンピックイヤーに連動してのスポーツ振興の充実	◎
食育視点を取り入れた生活情報の発信強化	○
従業員のボランティア参画支援	○
2009年度CSR取り組み課題	
新規策定した「社会貢献方針」の企業グループ内浸透と、「4つの重点分野」に基づく活動推進	

対象ステークホルダー：環境	
[方針] 常に未来に向けた技術で、“植物のチカラ”を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで地球環境に配慮した商品・サービスの開発、ご提供を通じて、資源循環型社会の構築を目指します。	
2008年度CSR取り組み課題	自己評価
ISO14001の生産拠点における2009年度マルチサイト認証取得へ向けた活動促進	◎
温暖化対策推進法、省エネ法など環境関連法規改正への対応	○
“植物のチカラ”を活用した容器開発	◎
植物油の潤滑油用途拡大と非食用油脂を活用した用途開発	○
2009年度CSR取り組み課題	
・中長期環境目標の設定（2020年頃の長期環境目標を設定） ・エコリオ事業開発テーマの継続研究と事業化に向けた取り組み	

※自己評価の◎は“達成”、○は“ほぼ達成”（ほぼ達成し、未達成分のめどもついている）

お客様のために

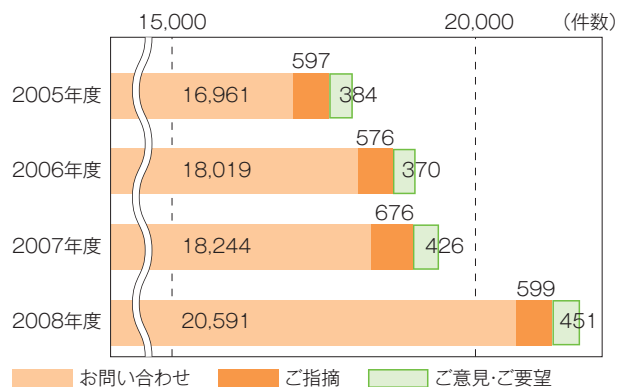
お客様の声を活かす取り組み

お客様からのお問い合わせ、ご意見・ご要望といったお客様の声を商品に反映していくことは、企業にとって最も大切な取り組みの1つです。当社は、商品やサービスに関するお申し出を、「お客様相談窓口」で受け付けています。

お客様の声は、すべてデータベースに蓄積しており、集計・分析した後、定期的に生産工場、商品開発部門などの関連部門に報告し、新商品の開発や改善につなげる体制をとっています。

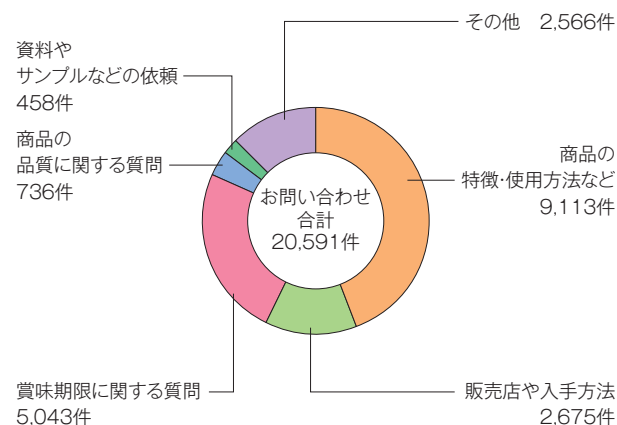
また、お客様からいただいたご指摘内容は、毎週経営陣や関連部門に報告し、迅速な原因の究明、改善策の実施につなげています。

●お客様相談窓口へのお申し出件数

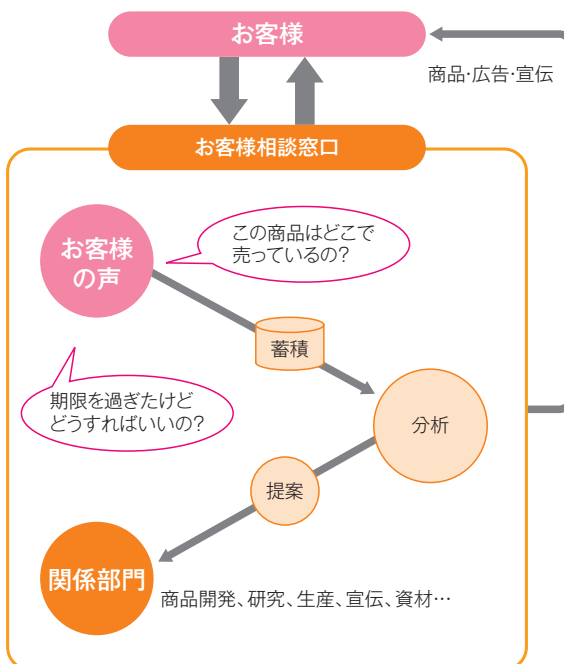


※お申し出件数の増加理由：2008年度は社会の中で食品に関わる事件・事故が多数発生しました。その影響で、消費者の食品に対する不安や意識が高まり、お申し出件数が大幅に増加しました。

●2008年度のお問い合わせ内容内訳



●お客様の声を商品に活かす仕組み



ホームページにお客様相談窓口のページを公開しました

2009年4月から、商品に関するよくあるご質問、お客様の声を反映した商品の改善事例、品質や環境に関する取り組みなど、お客様にお伝えしたい情報をまとめてご覧いただけるお客様相談窓口のホームページを公開しました。また、今回の窓口公開にあわせて、お客様からのお問い合わせをメールで受け付けられるようにしました。

今後もより一層、お客様にご満足いただくために、さまざまな情報の積極的な発信や、お問い合わせをいただいた際の正確、丁寧、迅速なお客様相談窓口の対応に努めます。

<http://sodan.nisshin-oillio.com>



お客様相談窓口ホームページ

お客様の声を活かした改善

事例1 ● ラベルをはがしやすく

「リセットドレッシングソース200ml」のシュリンクラベルをはがしやすくするとともに、「はがし口↑」を印刷しました。お客様からの「容器を捨てる際にラベルがはがしにくく、どこからはがしていいのか、わかりにくい」とのご意見を反映したものです。はがし口のミシン目も、1本から2本に変更しました。



ミシン目を2本に



事例2 ● 賞味期限を読みやすく

「トスカーナエキストラバージンオリーブオイル 250ml」で、「賞味期限の数字の読み方を教えてほしい」との声をいただきました。イタリアの製造工場での管理番号の後に賞味期限を記載していたことが主な要因でした。賞味期限の数字を先頭に印字するとともに、さらに年部分を西暦の下2桁から4桁すべてを記載する方法に変更しました。変更以降、お客様からのお問い合わせは、ほとんどなくなりました。

6250 08.03.07
YEAR 05.06

変更前



2010.10.13 8287
CROP YEAR 07/08

変更後



お客様の視点に立った商品づくり

事例1 ● 注意点に気がつくように

「日清キャノーラ油エコアップ600g」において、油の加熱時や使用時の注意点を「使用上の注意」として、商品ラベルにわかりやすく表示しました。通常より大きな文字を使用し、また、赤枠で囲むことにより、視認性を高めました。



事例2 ● より持ちやすく

「日清サラダ油1300g」丸ボトル容器で、持ち運びをしやすくするために、取っ手部分の形を変更しました。取っ手の長さを長くし、さらに容器と取っ手の間の空間を広くすることにより、指全体で持ちやすくなりました。



変更前



変更後



取引先様とともに

取引先様(調達先)と連携した商品開発

事例●注ぎ口内フタの改善でもれにくく

日本クラウンコルク(株)様との共同開発により、「日清炒め油」の注ぎ口内フタを取り外し式から一体型の自動開閉式に変更しました。これにより内フタの紛失を防ぐとともに、内フタ紛失によるもれをなくすることができました。

なお、この開発品で日本クラウンコルク(株)様が第46回全日本包装技術研究大会で優秀発表されています。



「日清炒め油」で採用した注ぎ口内フタ

取引先様(販売先)と連携した商品開発

事例1●ゼリー飲料用中鎖脂肪酸についての共同研究

(株)コカ・コーラ東京研究開発センター様との共同研究により、中鎖脂肪酸を配合した機能性飲料の持久力向上効果を確認しています。その「持久系エネルギー成分MCT(中鎖脂肪酸)」を配合した初めてのゼリー飲料が、日本コカ・コーラ(株)様より2008年6月より、素早く効率的に持久系エネルギーを補給できる商品「アクエリアス パワフルショット」として発売されています。

事例2●食品メーカーや外食産業との商品共同開発

多くの食品メーカー様や外食産業様との商品共同開発に取り組んでいます。中鎖脂肪酸の特長を活かした商品の開発(リセットネットワーク商品の開発)や、低トランス脂肪酸商品の開発を行っています。(トランス脂肪酸への対応▶P17参照)

取引先様(調達先)とのコミュニケーション

持続可能なパーム油のための円卓会議への参加

マレーシアにある当社のグループ会社 INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN. BHD.は「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」に参加しています。RSPOは、国際的な非営利団体であり、環境や社会に配慮した、持続可能なパーム油産業の開発・運営に取り組んでいます。

●当社グループとマレーシア現地団体との主なネットワーク

- Malaysian Palm Oil Board (MPOB) / マレーシアパーム油庁
パームの研究・開発を通じてのマレーシアパーム産業の発展
- Malaysian Palm Oil Council (MPOC) / マレーシアパーム油協議会
パーム油の特長を世界に紹介し、パーム油およびパーム関連製品の普及と市場拡大を促進
- The Palm Oil Refiners Association of Malaysia (PORAM) / パーム油精製業者協会
パーム油業界の発展、パーム関連製品の貿易拡大

取引先様(販売先)とのコミュニケーション

政策説明会の開催

定期的取引先の皆様を対象とした政策説明会を開催し、当社の商品や販売戦略などについて紹介してコミュニケーションを図っています。2009年2月に開催した政策説明会には、量販店の方々を中心に約200名にご参加いただきました。原料状況の説明や当社商品の紹介を行い、当社の技術力や提案について、参加いただいた皆様から高い関心をいただきました。



政策説明会

株主・投資家の皆様とともに

コミュニケーション推進への取り組み

当社は、健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主の皆様と双方向のコミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上と適切な利益還元をめめます。また、広く投資家の方々に向けて、適切な情報開示を行います。

株主様工場見学会

2008年9月に、株主様向け工場見学会を、昨年に引き続き主力工場である横浜磯子事業場で開催しました。抽選による46名の株主様と同伴者様あわせて82名にご参加いただき、映像による会社紹介と工場構内をバスで見学していただきました。

また、今回はミニプラントによる搾油・精製実験を実施し、大変わかりやすいと好評でした。見学終了後、社長以下取締役が参加した懇談会を開催し、当社製品を使用した料理をご賞味いただきました。



株主様工場見学会

個人投資家の皆様とのコミュニケーション

2008年度は証券会社とのタイアップで全国の証券会社支店にてセミナーを計15回開催し、約900名の個人投資家の皆様当社グループの事業領域や健康に関する取り組みなどについて説明しました。

機関投資家・アナリストの皆様とのコミュニケーション

機関投資家・アナリストの皆様を対象に、中間決算発表、期末決算発表に合わせて決算説明会を開催し、業績や経営戦略について説明しました。また、個別のミーティングを積極的に行い、2008年度は延べ95回開催しました。

決算説明会

アナリストやマスコミの皆様を対象に、年2回、決算説明会を開催しています。経営トップから、決算状況や中期経営計画の進捗状況などを説明し、タイムリーな情報を提供するように努めています。また、決算説明会で使用した資料はホームページ上で開示しています。

2008年度からは四半期開示制度の開始により、決算説明会を行っていない第1四半期と第3四半期については、決算発表日と同日に「決算補足資料」をホームページ上で開示しています。

IRツール

正確で信頼性の高い情報を、ホームページ上でタイムリーに公開しています。売上高、損益の推移などを業績ハイライトのサイトでご覧いただけます。また、携帯電話でのIR情報提供を行っています。その他、株主通信、アニュアルレポート(英文)等を通じて、わかりやすい情報開示に努めています。また、海外投資家の皆様への情報発信強化策として、決算短信概要の英語版をホームページ上で開示しています。



株主通信



アニュアルレポート



ホームページ

IR情報：<http://www.nisshin-oillio.com/inv/>

携帯電話でのIRサイト：<http://m-ir.jp/c/2602>

従業員とともに

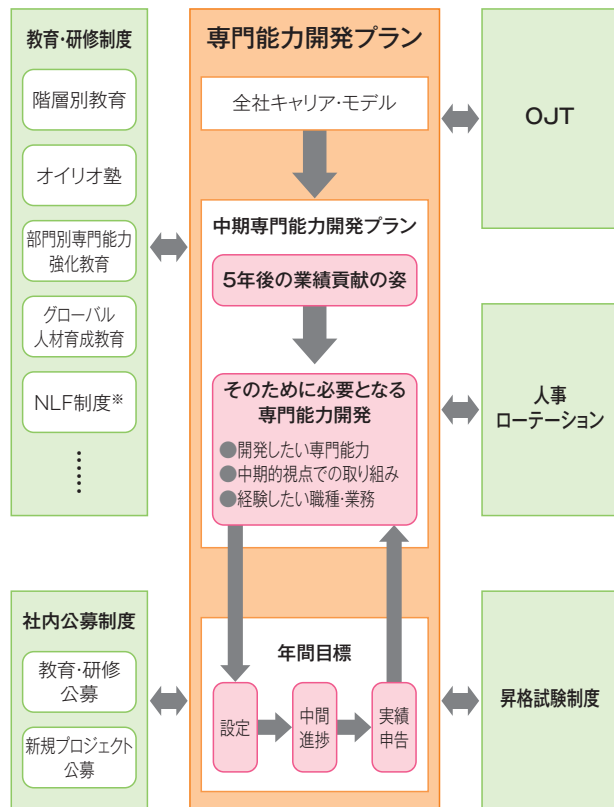
人材の育成とキャリアデザイン構築

時代に合った働きやすい環境を整え、従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした職場を実現します。

人材の育成に力を入れた人事諸制度

当社の従業員一人ひとりが、高度な専門性に裏付けられた行動力をもって成果を出すプロフェッショナルであってほしいと考えています。2000年に導入した人事制度の「能力開発・成果主義」をさらに深化・体質化させ、より創造的で躍動感ある風土を醸成するとともに、行動力や組織力の強化、人材育成の再徹底といった視点で改定し、2009年度からスタートしました。この制度の特長は、単に成果のみを追求するのではなく、従業員個々の主体的な能力開発を会社が支援することを前提としている点にあります。この人事制度の中心となる仕組みとして「目標実現制度」と「専門能力開発プラン」があり、この二つの制度が密接にリンクすることにより期待される成果が達成されるのです。

● 充実した能力開発体制



※NLF制度：語学スクーリングやTOEIC受験、通信教育受講・資格支援など自己開発教育への補助などを行っています。

充実した能力開発体制

専門能力開発プランを中心に、図のようなさまざまな取り組みを連動させ、従業員一人ひとりの能力開発を推進しています。特に教育研修については、長年にわたって「教育はすべての業務に優先する」という考え方のもと、階層別教育、部門別教育、自己開発教育など体系的な教育研修制度を整え、従業員教育の充実に関心を注いでいます。

障がいのある方の雇用の子会社運営

当社では、2004年4月から、障がいのある方に安心して働くことができる場を提供することを目的として、特例子会社「日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社」をスタートさせました。横浜磯子事業場内の清掃業務を中心に能力開発を支援しています。これにより、2009年3月時点での障がい者雇用率は1.94%となっています。

人権セミナーの開催

2008年10月、人権をテーマにしたセミナーを実施しました。詳しくは、P31「コンプライアンス強化月間企画」をご覧ください。

メタボ対策セミナーの実施

2008年12月、外部機関より保健師を講師に招き、「メタボリックシンドローム撃退セミナー」を開催しました。講義とともに検診結果に基づくメタボ危険度チェックや、6カ月間で体脂肪を減らす行動目標の作成を行うなど、具体的な行動につながるセミナーになりました。

健康を支援する食堂運営

当社の本社食堂(1日平均150人利用)や横浜磯子事業場内の社員食堂(同200人利用)では、利用者の健康に配慮し、健康への意識を促す取り組みとして、利用者の声を反映しながら「健康定食」や「メタボ対策メニュー」といったメニューを提供しています。

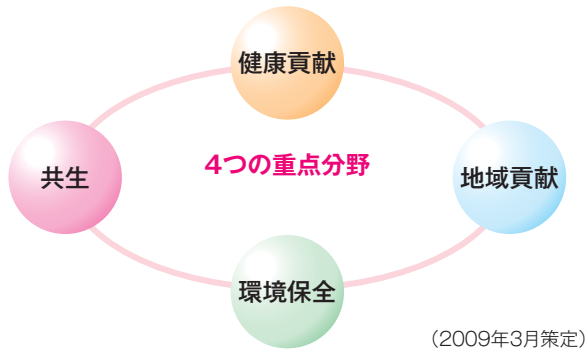


社員食堂の健康定食

社会のために

社会貢献方針

日清オイリオグループは、“植物のチカラ”に根ざした健康で豊かな社会の実現を目指し、良き企業市民として社会貢献活動を継続的に実施します。
また、日清オイリオグループを構成する一人ひとりの自主的な社会貢献活動を応援します。



海外での社会貢献活動

中国大連での地域交流活動

中国大連の経済技術開発区では、日系企業の総務人事部門管理職の会合が母体となったボランティア団体があり、農村地域の小学校の校舎建設や設備・文具用品の寄贈などの活動を行っています。

大連日清製油有限公司では、地域社会とのコミュニケーション活動の一環としてこの活動を支援しており、従業員も参加しています。2008年には、小学校への訪問用に移動用バスを提供しました。



地域小学校への訪問活動

国連WFP協会との取り組み

当社グループは、特定非営利活動法人(認定NPO法人)国際連合世界食糧計画WFP協会(国連WFP協会)の評議会メンバーとして、その趣旨に賛同してさまざまな活動に参加しています。食を扱う企業グループとして、世界の飢餓問題に取り組んでいる国連WFP協会とは、今後も社会貢献活動のパートナーとして一層交流を深めていきます。



チャリティーウォーク

●活動参加例

- チャリティーウォーク「ウォーク・ザ・ワールド2008」
- ボランティアベンダーの導入
- 横浜磯子春まつりでの、国連WFP協会ブース出展
- 当社内でのWFP活動の紹介

国連WFP協会とは

国連WFP協会は、飢餓の撲滅を使命に食糧支援を行うWFP 国連世界食糧計画(以下WFP)を支援する認定NPO法人で、日本におけるWFPの公式支援窓口です。WFPの人道支援活動を支える募金活動、飢餓問題やWFPの取り組みについての広報活動により、企業・団体と連携し、日本でのWFP支援の輪を拡げています。

<http://wfp.or.jp/>

国連WFP協会より

WFPは、開発途上国の飢餓問題解決のために食糧支援を行っており、緊急時には命を守るための食糧を届け、学校では栄養たっぷりの給食を提供するなどの活動を行っています。

日清オイリオグループさんには、これまででも評議員としてさまざまなかたちで当協会の活動に参加いただきました



が、2008年は社員の皆様のボランティア参加を含め、さらに多くの取り組みで一緒でき、心強く思っております。

認定NPO法人 国連WFP協会
石川 莉紗子さん

地域社会とともに

横浜磯子事業場での地域イベントの開催

横浜磯子事業場では、年2回、地域の皆様に施設を開放してイベントを開催しています。「横浜磯子春まつり」は、2008年で27回目の開催となり、地域の春の祭事として定着しました。また、「夏祭り」では、従業員の手作りによる夜店や抽選会などを行い、地域の皆様に楽しんでいただいています。



地域イベントでの横浜磯子春まつり

もぎ豆腐店(株)の地域イベントへの参加

当社グループの一員としてこだわりの豆腐を製造・販売しているもぎ豆腐店(株)は、地域に密着した企業として、地元の埼玉県本庄市でのイベントなど、さまざまな企画に積極的に参加しています。



地域イベントでのもぎ豆腐店

地域・社会の健康づくりに向けて

当社は、各種スポーツイベントの開催や協賛を通じて、地域・社会における健康づくりを応援しています。毎年「神奈川マラソン」を後援しており、この大会のスタート・ゴール地点として横浜磯子事業場を提供しています。



神奈川マラソン(2009年2月)

食育への取り組み

食育活動として「食を育む4つのチカラ」を支援しています。

- ① 身につけるチカラ：食の興味を育み、知識・調理技術を身につける。
- ② 選ぶチカラ：健康的で幸せな生活の糧となる食を選ぶ。
- ③ 使いこなすチカラ：現代のライフスタイルに合わせて、上手に食を工夫する。
- ④ 伝えるチカラ：次の世代へ、育みの心と共に食を伝える。

料理教室の開催

おいしい料理を家庭で楽しんでいただけるように、各地で料理教室を開催しています。日清オイリオグループ単独、



料理教室

あるいは他企業と共同で、お客様へ食用油のおいしさや料理の楽しさを提案しています。

生活科学研究室の活動

生活科学研究室は、2008年5月に開催された第2回日本食育学会学術大会にて、さらなる少子化時代を迎える中で今後増えていく食のスタイルを予測した「家族形態による理想と現実の『食スタイル』について」を発表しました。参加者からは、自身の家族形態と食生活の変化を発表内容に重ね合わせ、現状の食生活を見直すきっかけになったなど、多くのご意見をいただきました。



学会発表の様子

環境のために

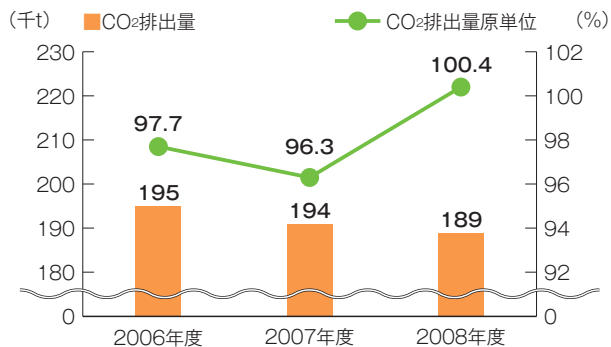
環境負荷低減に向けた活動を全社的なものにするために、環境目標を部門別に設定し環境活動に取り組んでいます。

●環境目標および評価

評価：○順調に進捗、△未達成・改善が必要

テーマ	担当部門	中長期環境目標	2008年度の実績	実績評価	2009年度の取り組み
地球温暖化防止	生産	●生産工程の使用エネルギーについて、「CO ₂ 排出量原単位」を2010年までに88%に改善（1990年度対比）	●CO ₂ 排出量原単位：100.4%（1990年度対比）	△	●CO ₂ 排出量削減のための年度目標策定および実行
		●生産工程の使用エネルギーについて「CO ₂ 総排出量」を2010年までに92%に改善（1990年度対比）	●CO ₂ 総排出量：93.3%（1990年度対比）	○	●CO ₂ 排出量削減のための年度目標策定および実行
	物流	●特定荷主としてエネルギー使用に係る原単位を5年間で5%以上削減（2006年度比）	●原単位：99.1%（2007年度対比）	○	●改正省エネルギー法における目標への対応（輸送の大ロット化と積載率の向上など）
		●物流品質の向上→物流異常発生率100ppm以下（輸配送）	●物流異常発生率：58ppm	○	●輸配送に携わる協力会社との連携強化
廃棄物の削減	生産	●2010年度までに、生産工程でのゼロエミッションを達成	●生産工程での再資源化率：99.4%	○	●再資源化率の向上 ●最終処分量の低減
省資源	資材	●家庭用・業務用容器包装の減量化、減容化	●容器包装重量：3.7%削減（2007年度対比） ●1,300g扁平ボトルの減量化	○	●容器包装リサイクル法（日本植物油協会自主行動計画）への取り組み推進
環境関連商品事業開発	開発	●副産物の有効利用、石油代替製品の開発など	●エコリオ事業開発における取り組み ▶P13	○	●エコリオ事業開発の推進
オフィス関連	事務・管理	●オフィスでの電気使用量を2010年度までに3%削減（2006年度対比） ●コピー用紙の使用量削減（ペーパーレス化、裏紙使用など） ●紙ゴミの削減（分別化、減量化など）	●電気使用量：1.7%削減（2006年度対比） ●コピー用紙使用量：3.2%削減（前年度対比） ●紙ゴミ排出量：14.3%削減（前年度対比）	○	●オフィス環境活動ガイドラインに基づく、活動継続

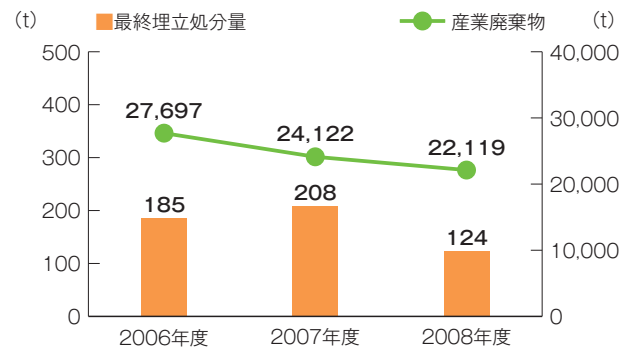
●CO₂排出量と原単位（1990年度対比）の推移



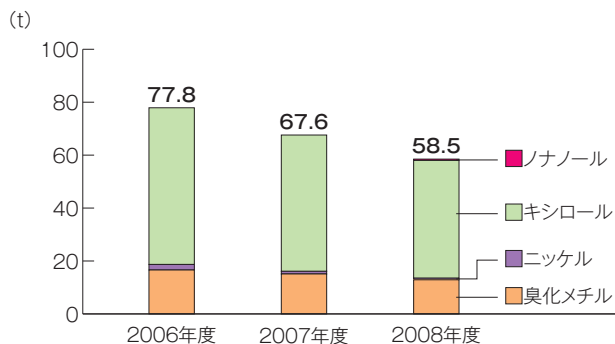
※管理対象を生産工程（国内）とします。

CO₂排出量原単位=[使用エネルギーのCO₂換算値] / ([原料処理量]+[精製原油処理量])

●産業廃棄物量と最終埋立処分量

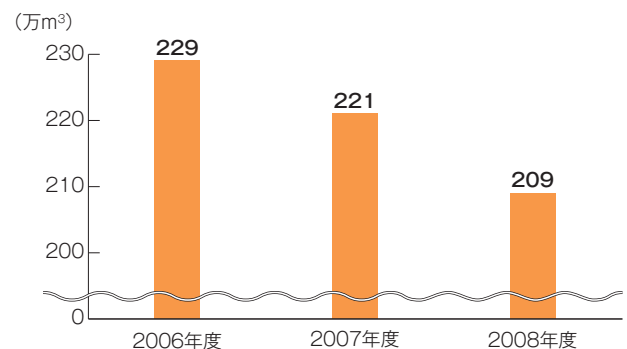


●化学物質排出量・移動量



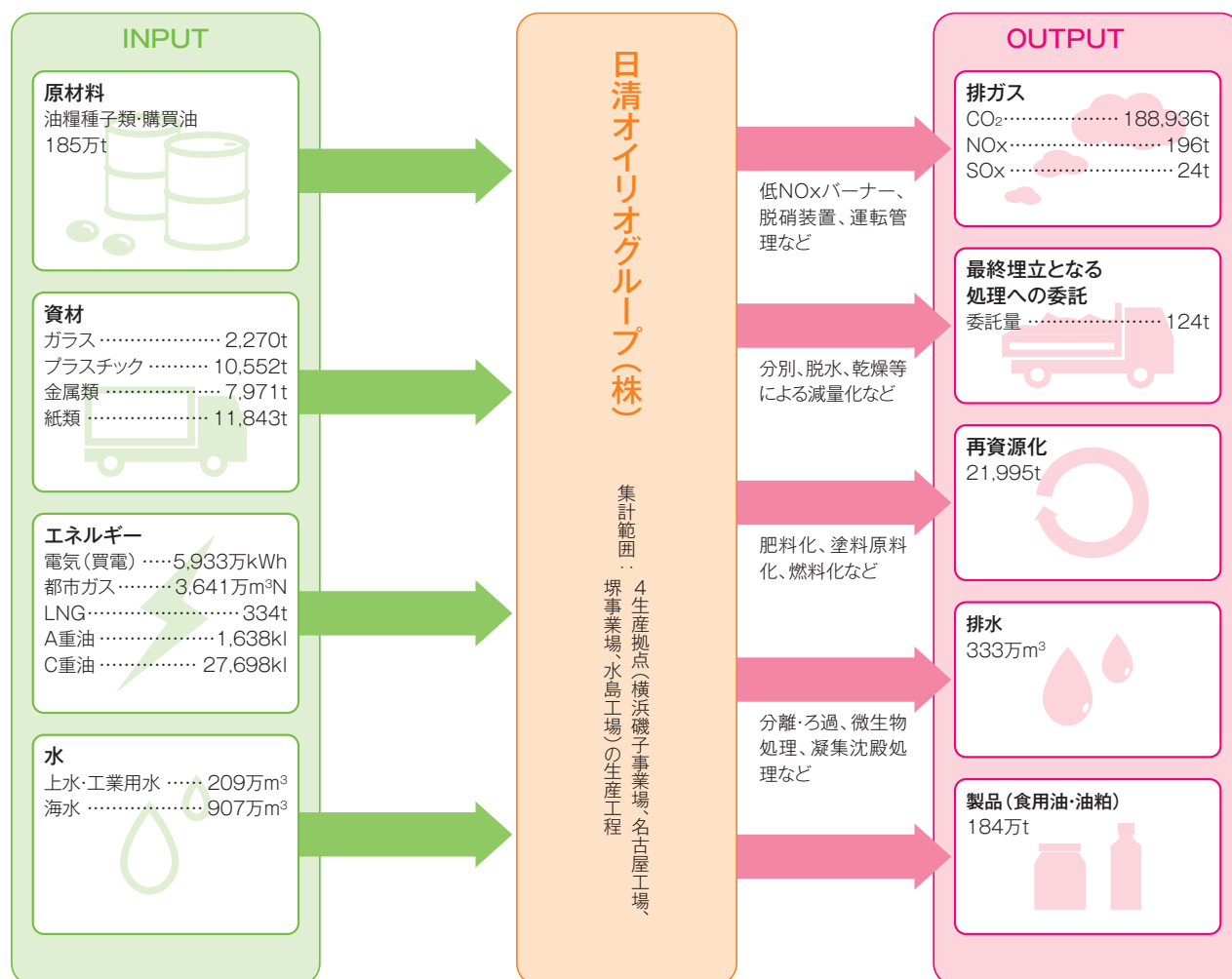
※PRTR法第一種指定物質で年間取扱量が1t以上の物質について掲載

●水使用量（上水・工業用水）



資源・エネルギーの流れ(2008年度)

製油関連商品の生産には多くの資源・エネルギーを消費し、また廃棄物が排出されます。私たちは、このデータを継続的に集計、基礎データとして活用し、環境負荷低減に取り組んでいます。



●環境保全コスト

(百万円)

環境保全コスト分類		投資額		費用	
分類	主な取り組みの内容およびその効果	2007年度	2008年度	2007年度	2008年度
1. 事業エリア内コスト		129	204	1,089	1,024
①公害防止コスト	大気汚染防止/水質汚濁防止/悪臭防止	70	71	507	506
②地球環境保全コスト	温暖化防止/オゾン層破壊防止/省エネルギー	29	63	185	165
③資源循環コスト	産業廃棄物の減量化、削減、処理、処分/事業系一般廃棄物の減量化/削減、処理、処分	30	70	397	353
2. 上・下流コスト	容器・包装等のリサイクル・回収・再商品化/製品等の設計変更	—	—	314	232
3. 管理活動コスト	社員への環境教育/ISO14001プロジェクト/環境対策の人的費用	—	—	130	116
4. 研究開発コスト	環境保全に資する製品等の研究/開発に関わる人的費用	—	—	55	54
5. 社会活動コスト	事業所内および周辺の緑化、美化、景観等の環境改善対策	—	2	—	0
6. 環境損傷対応コスト		—	—	11	10
合計		129	206	1,599	1,436

※環境保全対策に伴う省エネルギーによるエネルギー費の節減の総額は1億61百万円となりました。

CSRを支える基盤

コーポレート・ガバナンス

企業が社会との信頼関係を維持・向上させるために、コーポレート・ガバナンスはますます重要なものになっています。私たちは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要事項と考えています。

透明性の高い経営を目指した統治体制

私たちのコーポレート・ガバナンスに対する姿勢は、会社法施行にあわせて文書化した「内部統制システムの構築に関する基本方針」(当社ホームページに掲載)に表明しています。

2008年度は、反社会的な勢力の排除および財務報告の適正性を確保するための体制に関する条文の追加等、「内部統制システムの構築に関する基本方針」の一部改訂を行いました。

また、顧問弁護士を招いて、コーポレート・ガバナンス研究会を開催し、常勤取締役・監査役および執行役員が出席しました。

内部統制システムの状況

当社グループでは、内部統制システムを金融商品取引法に定められた内部統制報告制度への対応とともに、企

業の社会的責任(CSR)を果たすための重要なファクターの一つとして位置づけ、基本方針に基づいた内部統制システムの強化を進めています。2009年6月に有価証券報告書と併せて「内部統制報告書」「内部統制監査報告書」を提出しています。

内部統制システムの整備・運用強化

2008年度は、「内部統制報告制度」に基づいた内部統制評価を主眼とした内部統制システムの運用徹底、強化を実施しています。特に業務プロセスに係る内部統制については、業務の有効性、効率性を高めることを目的に、内部統制委員会を中心に、プロセス主管部門、運用部門との連携を図り、さらなる強化を進めています。

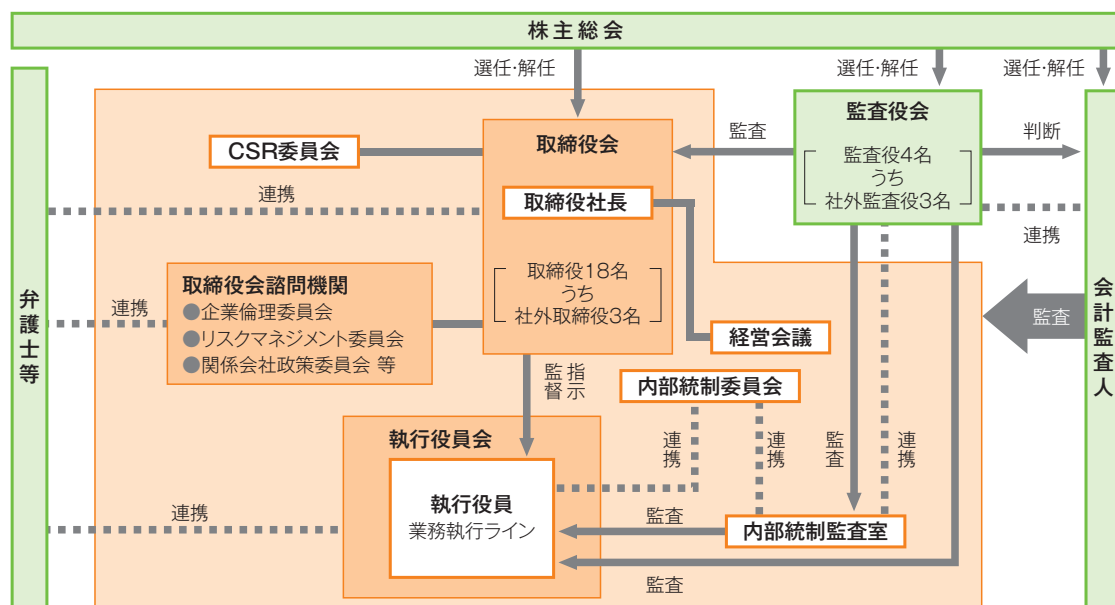
コンプライアンス

私たちは、コンプライアンスを単なる法令遵守とは考えず、ビジネス上の倫理、さらには社会倫理の遵守と捉えています。

海外における企業倫理体制の構築

中国語版およびマレーシアの現地法人向けの行動規範(英語版・マレー語版)を策定、企業倫理ホットラインの受付窓口も設置し運用を開始しました。それぞれの国に

●日清オイリオグループ(株)コーポレート・ガバナンス体制(2009年3月31日現在)



※常勤監査役は、経営会議にオブザーバーとして出席しております。
 ※上記以外に常勤監査役とコーポレートスタッフ部門との定期的な情報交換を目的とした「コーポレート・ガバナンス協議会」を設置しております。

て現地従業員への行動規範・CSR説明会を開催し、浸透活動を図っています。

また、中国企業倫理委員会の開催など、海外における企業倫理体制の定着を図りました。

コンプライアンス・プログラムの実施

事業年度ごとにテーマを設定して、教育・監査活動を行っています。

●2008年度の主なコンプライアンス・プログラム、研修実施内容

- 景品表示法 講習会
- eラーニングによるインサイダー取引規制教育
- コンプライアンスの映像教材の導入、職場で啓発活動への利用
- 新入社員研修、管理職向け研修などでのコンプライアンス教育

コンプライアンス強化月間企画

毎年10月を企業倫理月間と定め、さまざまな企画を実施しています。2008年度は、(財)人権教育啓発推進センターの仲介によって、(株)電通の若林源基氏を講師に招き、人権をテーマに講演会を実施しました。海外を含む主要拠点へも配信し、親・子会社の役員を含む204名の参加がありました。

また、企業倫理意識調査を当社グループの国内従業員に対して実施しました。

当社グループ会社である日清物流株式会社の社員に対して 神奈川県港南警察署長より発せられた再発防止命令書について

2009年1月14日、神奈川県港南警察署長より当社グループ会社である日清物流株式会社社員に対して、道路交通法第58条の5第2項の規定により、再発防止命令が発せられました。

これは2007年12月11日より2008年3月26日ごろまでの間、当社横浜磯子事業場内日清物流株式会社磯子バルクセンターにおいて、積載物の引取時、大型貨物自動車等に積載を行う際に車両の最大積載量の確認を怠ったとの指摘によります。

この指摘については事実であると認識しており、大変申し訳なく深くお詫び申し上げます。

警察の指摘を受けた2008年4月以降、車両における表示、車検証の確認を行うなど、最大積載量の確認を徹底し、決められた積載量の遵守に努めております。

再発防止命令書の発令を真摯に受け止め、管理を徹底し、再発防止に努める所存です。

行動規範チャレンジ

当社の創立記念日にちなみ、3月には従業員全員を対象に、社内グループウェアを使用して行動規範とコンプライアンス事例に関する問題に答える「行動規範チャレンジ」と銘打った企画を実施しました。(参加率96%)

リスクマネジメント

事業継続計画(BCP:Business Continuity Plan)

2008年度は、首都圏直下型の大規模地震と新型インフルエンザの2つの危機に対するBCPの策定に向けて検討しました。2009年度は、構築したBCPについて、PDCAの流れに則り、教育・訓練などを実施します。

「安全塾」に社外からの見学

当社では、2007年度から「安全塾」として工場での危険を体験できる設備を設けて、現場安全の教育を行っています。

2009年1~2月には、他社の若手社員約60名が研修の一環として、当社横浜磯子事業場にて「安全塾」危険体験設備を見学しました。見学の後は、安全活動について活発な意見交換が交わされ、今後の安全交流の道も開かれました。



ロータリーバルブの羽根とケーシングへの挟まれを説明

2009年度の課題

- グループ全体での内部統制システム、リスク管理、コンプライアンス体制のレベルアップ(企業再編に伴う内部統制システム整備など)
- 大規模地震BCPおよび新型インフルエンザBCPの運用体制の整備

読者アンケート

「日清オイリオグループ CSR報告書2009」をご覧いただきありがとうございます。

当社グループのCSR活動およびCSR報告書を継続的に改善していくために、皆様のご意見・ご感想をいただけますようお願い申し上げます。

Q1. 本報告書をどのように入手されましたか？

- 当社より直接送付 当社主催のイベント 具体的に
- その他 具体的に

Q2. 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客様 お取引先 株主・投資家 事業所近隣住民 行政機関 金融機関 企業・団体のCSRご担当
- NPO・NGO 報道機関 当社グループの従業員・そのご家族 学生
- その他 具体的に

Q3. 本報告書のなかで、とくに印象に残った項目、関心を持たれた項目はどれですか？(複数回答可)

- アスリートをサポートする“植物のチカラ” 編集方針 日清オイリオグループについて
- トップコミットメント 特集“植物のチカラ” 安全と安心のために
- 日清オイリオグループのCSR 日清オイリオグループのCSR活動の状況 お客様のために
- 取引先様とともに 株主・投資家の皆様とともに 従業員とともに
- 社会のために 環境のために CSRを支える基盤

Q4. 本報告書をお読みいただいた感想をお聞かせください。

- わかりやすさ(内容) とてもわかりやすい わかりやすい ふつう わかりにくい とてもわかりにくい
- 内容の充実度(情報の量) 多すぎる 充実している ふつう やや不足している 少なすぎる
- 読みやすさ(デザインなど) とても読みやすい 読みやすい ふつう やや読みにくい 読みにくい
- 当社グループのCSR活動について 十分評価できる 評価できる ふつう あまり評価できない 評価できない
- (前回お読みになられた方にお伺いします)前年度のCSR報告書2008と比べての全体的な評価
- とてもよくなった よくなった 変わらない やや悪くなった 悪くなった

Q5. 冊子版と詳細版(ホームページ)の2つの媒体による情報開示の方法についてお聞かせください。

- 冊子版と詳細版(ホームページ)の両方が好ましい 冊子版のみが好ましい 詳細版(ホームページ)のみが好ましい
- その他 具体的に

Q6. 報告書全体についてご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。お差し支えがなければ、下記にもご記入ください。

お名前	ご職業(勤務先・学校名)
ご住所 〒	次年度の送付を希望する <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

ご提供いただいた個人情報は、CSR活動およびCSR報告書作成を改善するため、またご希望により本報告書を送付するために参照され、その情報が保持されるよう当社CSR推進室にて管理いたします。また、個人情報の開示や訂正・削除のお申し出をいただいた場合は、速やかに対応いたします。

FAX:03-3206-6456

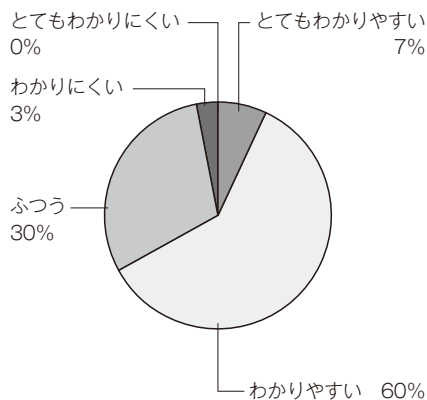
日清オイリオグループ株式会社 CSR推進室

CSR報告書2008 アンケート集計結果

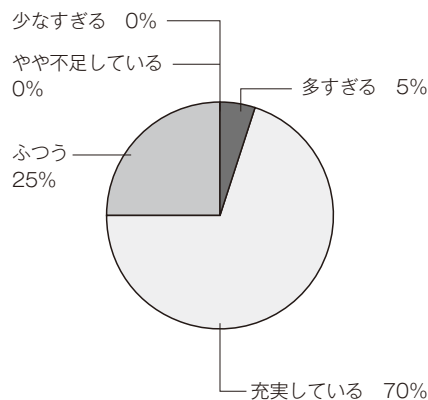
2008年6月に発行した「CSR報告書2008」に対して、多くの皆様からご意見・ご感想をいただき、誠にありがとうございました。
アンケート結果について、ご報告いたします。

本報告書をお読みいただいた感想

●わかりやすさ(内容)

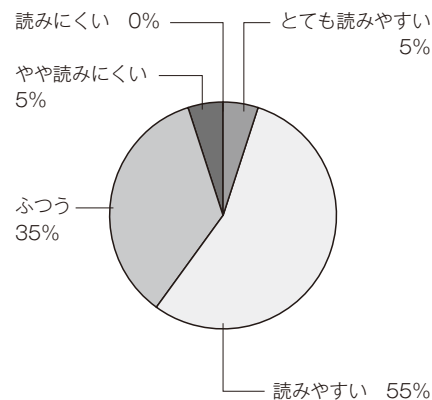


●内容の充実度(情報の量)

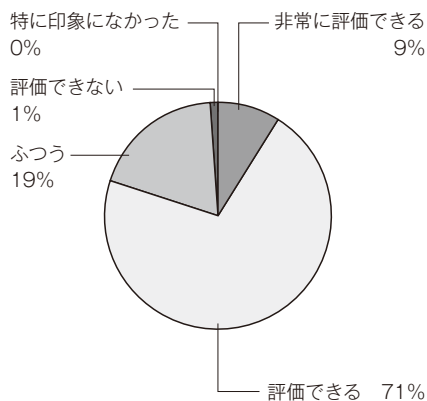


●読みやすさ

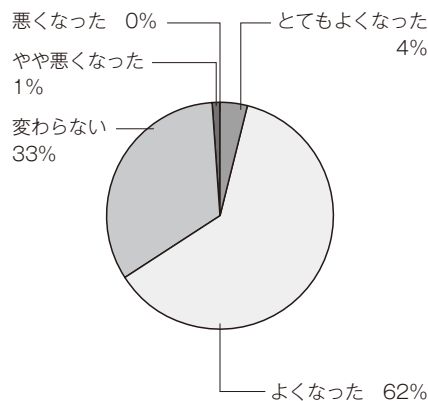
(デザイン、レイアウト、文字の大きさ、写真、表など)



●当社のCSR活動について



●前年度の報告書と比べての全体的な評価



印象に残った項目、関心を持たれた上位項目(複数回答)

1. 廃棄物削減の取り組み
2. 地球温暖化防止の取り組み
3. お客様とともに
4. CSRの基本方針
5. CSR活動の状況



なたね
キャノーラ【菜種】

油分：38~45%

菜の花の種子からとったキャノーラ油は、食用油だけでなくマーガリンやショートニングにも使われます。料理はドレッシングから炒め物、揚げ物まで幅広く。菜種粕は飼料や肥料になります。主要生産国：カナダ、オーストラリア



“植物のチカラ”

日清オイリオグループ株式会社

〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号
お問い合わせ先：CSR推進室 TEL.03-3206-5026
ホームページアドレス <http://www.nisshin-oillio.com>

